

◆本の紹介◆

『大量絶滅はなぜ起きるのか 生命を脅かす地球の異変』ブルーバックス B2241

著者：尾上哲治

2023年9月20日発行，新書判，254頁

ISBN: 978-4-06-533395-2

1000円（税別），講談社



本書は地球史における大量絶滅の研究を紹介する一冊である。本書の表紙を見ると、黒背景に「大量絶滅」の文字と、本書の内容を象徴するような表層が燃え盛る地球が描かれており、いかにも何か危機的な印象を受ける。地球史における大量絶滅といえば、いわゆる「ビッグファイブ」が有名で、なかでも恐竜の絶滅で話題になる白亜紀末期のそれは、古生物学者のみならず、多くの人が知るところであろう。また古生物に詳しい者であれば、これより古い時代である古生代末期に起きたP-T境界の大量絶滅を挙げるかもしれない。しかし本書で取り上げているのは、これらふたつの大量絶滅の間に起きた「三畳紀末期大量絶滅」である。本書の著者は長年、この大量絶滅の原因を探っており、その研究史と調査の様子が紹介されている。

話題は三畳紀末期の海生生物の小型化と、その後の

絶滅の原因を探るところから始まる。本書の特徴は何といっても、多様な研究方法で絶滅イベントを考察していく様子であろう。絶滅イベントの紹介といえば、古環境変動との結びつきに触れたり、生物相の移り変わりに着目したりする例が多い。本書では三畳紀末期の大量絶滅を考察するにあたり、化石の話題だけでなく、岩石学、堆積学、化学分析などの研究を取り上げている。例えば当時の気候変動から、海洋や岩石におよぼす化学組成の反応経路について詳しく説明するなど、古気候と堆積物・岩石の化学的な相互作用を解説している。

こうした先行研究から、本書で著者は従来の絶滅モデルを精査していくが、自身の研究からその矛盾点を指摘する。本書後半では自身の研究によるあらたな絶滅仮説について述べている。そして最後は現在の地球環境とその温暖化の原因、および今後の影響について言及している。エピソードでは、大陸の環境変化で生じた絶滅イベントの影響のみならず、深海の環境から表層に与える影響へと、著者の目が向けられていく。

著者自身、これまでの絶滅モデルおよび自身の考える仮説について、双方の利点・欠点を述べており、三畳紀末期の大量絶滅の原因がいまだ決着のつかないテーマであることが見て取れる。そのため、本書タイトルにある「なぜ」には、明確に答えを出していないかもしれない。むしろ本書は、絶滅イベントがどのように、そしてどのような分野から研究されるのか知ることができる内容である。また本書の書きぶりは、専門書のような解説調ではなく、平易な文章で三畳紀の絶滅イベントを紹介している。とくに各章の書き出しが小説またはエッセイのようで、読み物としても楽しめる一冊である。本書の「はじめに」に「探偵さながらに」とあるが、読者自身も本書を読みながら、過去に起きた大量絶滅の謎に思いを馳せてほしい。

（半田直人）